

書面報告の結果	
1. 会議の名称	令和3年度 第2回 甲賀市少年センター協議会
2. 意見聴取期間	令和4年2月16日(水)～3月11日(金)
3. 議題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度甲賀市少年センター活動状況について ・ 令和4年度甲賀市少年センター事業計画について
4. 公開又は非公開の別	公開
5. 会議資料	資料1 甲賀市少年センター協議会委員名簿 資料2 甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針 資料3 令和3年度甲賀市少年センター活動状況 資料4 令和4年度甲賀市少年センター事業計画 資料5 甲賀市少年センター条例 資料6 甲賀市少年センター条例施行規則

ご意見等

令和3年度甲賀市少年センター活動状況について

(委員)

- ・ 承認致します。

(委員)

- ・ 特に意見はありません。
従来通りの、各方面に繋げて頂ける相談機関として、高校としても期待しています。

(委員)

- ・ 少年センター様には日ごろより大変お世話になっております。
特に、少年非行が低年齢化していることから、今後さらに連携が必要かと思えます。
さて、本協議会が例年2回開催されていますが、関係機関との協議会は1回にならないでしょうか？現場としましては、詳細は情報交換を個別に対応させていただく方が、具体的で実践的であると思っております。次年度、協議会を1回にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

⇒ (事務局回答)

例年であれば、第1回目の協議会を6月中に開催しており、当該年度の事業計画を各委員に協議いただき、その内容に基づき事業方針を決定しています。また、翌年の2月中には、第2回目の協議会で、当該

年度の状況（活動報告）及び翌年度の事業計画を協議いただくため、年間2回の開催としております。今年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で6月に集まっていたことが感染対策上困難な時期であったため、協議会の開催をやむなく順延し、結果的に11月に第1回目の開催となったところです。協議会の開催にあたっては、各関係団体の代表の者の方へ出席を求め、それぞれの立場から意見交換を行っていただきながら、その意見を集約し、より良い少年センターの運営を目指していくことが協議会の設置目的であります。しかしながら、現在は、コロナ禍ということもあり、オンラインによるZoomなどを活用した開催もあることから、今後、各委員のご意見を伺いながら会議の方法についても検討してまいります。ご出席いただく各委員には、大変お忙しいことと存じますが、少年センターの事業運営を検討する重要な会議であることから、今後も協議会の2回開催について、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

（委員）

- ・日々のご活動大変大変ご苦勞様でございます。少年センターのあらゆる分野での細やかな活動成果が拝見できました。書面でもありましたが、相談業務が電話から面接に多くかわることを期待したいと思います。相手の顔の表情やしぐさを見るのも、本質を正確に判断できる要素の一つだと思います。相談者にとってもより心強く感じられると理解してもらうことで、面接相談が増えたらいいと思います。ただ、相談に行きやすい環境や状況を作るのも大事ではと思いました。少年センターのイメージがもっともっと明るくオープンでいいのではないのでしょうか。表に出る前の状況を一つでも多くキャッチできる機関（一般市民や地域団体）が増えていけば、子どもたちも救われることが多くなるのではと思いました。

⇒（事務局回答）

事務局としまして、電話よりも対面での相談の方がご本人にとってより良い結果に繋がってくると考えています。また「相談に行きやすい環境や状況を作るのも大事」という意見につきましては、一番良い環境で行きやすいところへの移転を検討してまいります。また、少年センターのイメージを今まで以上により良くできるよう今後も広報やホームページ等で広く周知してまいります。

令和4年度甲賀市少年センター事業計画について

（委員）

- ・承認致します。

（委員）

- ・第1回協議会が11月にあり、第2回目を実施する必要があるのか疑問です。年度末に実施する必要があるのなら、第1回目をもう少し早くする方がよいのではと思います。

⇒（事務局回答）

例年であれば、第1回目の協議会を6月中に開催し、第2回目を翌年の2月中に開催しております。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で6月の開催をやむなく順延したことにより、11月開催となったものです。今後は、時期を順延することがないよう、書面会議やオンラインによるZoomを活用するなど、各委員のご意見を伺いながら会議方法について検討してまいります。

(委員)

- ・複数の高校生問題が浮上している中、子どもたちには家庭の良さや温かさが伝わるような空間が大事ではと思います。毎日が忙しい両親の中で、自分のいる場所が減りつつあると感じた子どもたちが、充電できる場所づくりも必要ではないでしょうか？

明るいホットできる場所、いつ行っても優しく迎えてくれる人がいる、祖父母がゆったりと話を聞いてくれるそんな居場所（古民家的）が一つ位あってもいいではと思います。「ただいま」と言える家庭的な雰囲気、子どもたちの心を優しくしてくれるのを期待したいです。

⇒（事務局）

事務局としまして、子どもたちの「居場所」づくりは大変重要だと考えております。

第1回目の協議会でも話題となりましたが、学校へはなかなか行けない子どもが、少年センターへはお弁当持って朝から夕方まで過ごすという子どもが実際におられます。その子どもにとっては、少年センターがまさしく「大切な居場所」となっています。そのような居場所を今後も維持できるよう少年センターの環境づくりについて配慮してまいります。